

〈中高6年間の教育理念〉

ダイバーシティに富む社会の中で、自ら学び続ける力や柔軟な思考力、豊かな人間性を備えた、持続可能な未来の創り手となるグローバル人材を育成

週あたり授業時数31時間(標準より+2時間)

語学力や異文化理解を高め、国際性を育む学び

- 実践的な英語力を含むコミュニケーション力を育成するためのカリキュラム編成
⇒オールイングリッシュによる授業展開、ALTや少人数指導によるきめ細かな授業
- 国際交流事業と海外研修旅行の実施
⇒イングリッシュキャンプやオンラインによる海外との交流事業への参加、海外提携校への生徒派遣

全学年
英語+1時間

豊富な地域資源を活かした体験活動を軸とする探究的な学び

- 知的好奇心を刺激する体験活動による探究心や独創性の育成
⇒様々な企業や大学との連携による訪問研修や実験活動、高校のSSHと連携した学び合いや専門的な外部講師と連携した授業を推進
- ものづくりと自然、歴史と文化が交わる地域の特性を活かした探究スキルの育成
⇒博物館や科学館、豊かな自然等を活用して幅広い感覚を育むフィールドワークを展開

全学年
総合+1時間

多様な価値観の受容と協働意識の醸成を目指す中高一体型の学び

- 中高の垣根を越えて共に学ぶ機会の充実
⇒探究学習における中高生の学び合い、高校生と合同で実施する探究活動発表会の開催
- 異学年の仲間と協働して創り上げる中高一体型の学校行事
⇒体育大会や文化祭の合同開催

自ら求めて学ぶ姿勢と国際社会で活躍できる資質を育む学び

- 自ら求めて学ぶ姿勢と変化の激しい社会をたくましくしなやかに歩む姿勢を兼ね備えたチェンジ・メーカーを育成
- 幅広い知見と柔軟で独創的な発想力を育み、世間や人の思考・行動に大きな影響を与える、国際的に活躍する人材を育成
- 多様な価値観を尊重し、互いに自らの持ち味を発揮して、他者と協働して課題解決に向かう人材を育成

西尾高等学校・附属中学校

〈中高6年間の教育理念〉

さまざまな課題に挑戦し続ける意欲をもち、他者と協働しながら、多様性に富む国際社会の発展やよりよい地域の創生に寄与することができるグローバルな視点^{*1}をもつ人材を育成

週あたり授業時数30時間(標準より+1時間)

グローバルな視点の土台を築く探究的な学び(グローバル・ラーニングⅠ)

- 知識だけでなく、将来の社会に必要なスキル^{*2}や考え方の獲得を重視した教育課程を編成
⇒全教科で探究学習を重視した授業を実施
- 「地域」や「世界」のそれぞれの視点を養い、グローバルな視点の土台を形成
⇒「地域」や「世界」の「人・もの・こと」を積極的に取り入れた総合的な学習の時間を展開
- 世界と自分をつなげて捉えるうえで必要となる国際共通語としての英語の習得を重視
⇒地域に住む外国の方との交流等、英語を聞いたり使ったりする機会を多く設定

1年：総合+0.6時間
美術+0.2時間
音楽+0.2時間
2年：英語+1時間
3年：英語+1時間

中
学
校

個々の知的好奇心を大切にした主体的な学び

- 個々の「知りたい！」に応じ、授業後に学校で自由に探究学習に取り組める場を設定
⇒生徒が主体的に探究学習に取り組めるよう、授業後に中学校の施設を開放
- 教科学習は少人数(27人×3チーム編制)で展開し、課題解決に向けた活動環境を充実
⇒授業における個々の活動機会の増加、考えを伝え合う機会の増加

異年齢の交流を生かし、中高生が高め合う相互的な学び

- 中高生が合同で学び、互いの考えにふれることで、自分の視野を広げ、考えを深める機会を設定
⇒海外語学研修や探究発表を中高合同で実施
- 中高合同の生徒会活動や学校行事への参画を推進
⇒中高生徒会役員による定期的な意見交換会の設定、文化祭を中高合同で実施

高
校

地域や世界を見つめ、未来を考えるグローバルな学び(グローバル・ラーニングⅡ)

- 「グローバル・ラーニングⅠ」で育んだスキルを活用し、より深化した探究学習を全教科で展開
- 「地域」と「世界」を双方向に結び付け、未来を俯瞰する学習を通じて、グローバルな視点を獲得
- 大学の総合型選抜にも対応できる思考力、判断力、表現力を育成

西尾高等学校・附属中学校では、国際バカロレア(DP・MYP)の導入を目指す

*1 グローバルな視点：「地域から世界へ」「世界から地域へ」の双方向の視点

*2 将来の社会に必要なスキル：自己管理・リサーチ・社会性・思考・コミュニケーションの5つのカテゴリー

時習館高等学校・附属中学校

〈中高6年間の教育理念〉

自他及び社会の幸せ（ウェルビーイング）の実現を目指し、多様性を尊重し、未知なる課題に対して正面から向き合い、「自ら考え自ら成す」の精神で行動できる人材を育成

週あたり授業時数30時間(標準より+1時間)

ウェルビーイングを意識した、主体的、協働的かつ個別最適な学び

- ・教育活動全般において、ウェルビーイングを合言葉に、「自分、相手、みんなの幸せ」をバランスよく考えられる温かな集団作りを重視
1年：総合+0.6時間
2年：総合+0.5時間
- ・個々の関心に応じて探究し、異学年で学び合い、多角的な視点を身に付ける総合的な学習の時間の展開
⇒3学年合同でゼミを組織し、個人のテーマを探究しながら学び合う「探究ゼミ」の設定

多様な個性を出し合い認め合いながら、社会や世界とのつながりを意識する学び

- ・表現や対話を重視し、互いの考えを理解し合える授業を構想
⇒個の考えを伝えやすく聞きやすい少人数授業、話し合いやプレゼン活動の実施
3年：国語+0.5時間
英語+0.5時間
- ・身近な社会や世界との関わりを意識した、中高合同学校行事や国際交流活動を設定
⇒合同学校祭や中高ペア学年活動による異年齢の学び合い、オンライン交流や高校留学生との交流

生涯活用できる学習スキル^{*1}を身に付け、文理融合による総合知の芽を育てる探究的な学び

- ・各教科や総合的な学習の時間の授業展開の中に、習得したスキルを活用する場面を関連付けて設定
- ・高校のSSHの学びにつながる、文理融合を意識した教科横断的な単元の設定
⇒「江戸時代の学問を切り口に、和算の解き方を探究する」社会と数学の横断的な学習など
- ・豊かな感性を磨く学び舎の構想
⇒ピアノや絵画などを共有空間に設置し、芸術を身近に感じられる環境を整備
1年：美術+0.2時間
音楽+0.2時間
2年：数学+0.5時間

全日制単位制の導入と中高6年間のつながりを重視した、新しい時習館の学び

- ・ウェルビーイングと充実したライフキャリア^{*2}の実現を支える個別最適な学び
⇒よりよい将来設計を実現させるための幅広い授業の開設、4つのモデルコースの設定
- ・国際理解教育の一層の充実と、全日制単位制を活かした生徒の興味・関心に応える多様な学び
⇒ICTや外部機関を活用した日常的な国際交流の促進、全日制単位制による柔軟な科目選択
- ・リベラルアーツと文理融合による総合知の獲得をとおして、自考自成を体現する探究的な学び
⇒附属中学校や4つのモデルコース間の連携によるSSHプログラムなど、多様で充実した探究活動

時習館高等学校・附属中学校では、国際バカロレア（DP・MYP）の導入を目指す

*1 学習スキル：自己管理・リサーチ・社会性・思考・コミュニケーションの5つ

*2 ライフキャリア：職業だけでなく、日々の生活や社会での役割を含めた、その人の生き方全体を表す概念

愛知総合工科高等学校・附属中学校

〈中高6年間の教育理念〉

本物の「科学技術」「ものづくり」に触れ、生徒の柔軟な思考や可能性を広げることで、DX^{*1}をリードし、グローバルに活躍できる技術者を育成

週あたり授業時数…1年生：30時間(標準より+1時間)、2・3年生：31時間(標準より+2時間)

中学校

愛知総合工科高校の豊富な教育資源を生かした数多くの実体験から得られる学び

- ・ 「科学技術」「ものづくり」に触れる機会を通じた学びの実践
⇒T&E J Challenge100 (愛知総合工科附属中100の体験)
- ・ ロボットや3Dプリンタなどの豊富な設備を教材とした授業を展開
- ・ 少人数指導とAI教材の活用で行う実践的な英語学習
⇒グローバルプログラムとAIを活用した確実な英語の4技能5領域の習得
- ・ 高等学校の教育的資産(企業・大学連携：あいちT&Eサポーター)を活用したキャリア教育
⇒将来のキャリアを見据えた多様な特別活動の実現

理工学の観点から幅広く行う探究的な学び

- ・ 地域や科学技術を含む社会の課題に焦点を当てた探究活動
- ・ ビッグデータ^{*2}の活用による課題発見や課題解決の道筋を構築する学び
- ・ 理工学・情報等に関する知識や技術・技能を習得する機会の充実
⇒高等学校の科目『課題研究』につながる内容を3年間を通して教科横断的に学習

1年：総合+1時間
2年：総合+2時間
3年：総合+2時間

AI・データサイエンス^{*3}に興味・関心をもつ生徒の能力、可能性を引き出す学び

- ・ 各教科でAI・IoTやデータサイエンスに触れる授業を展開
⇒表計算ソフト等を活用したデータ分析・自動計測器等を用いた観察や実験・Python等を用いたプログラミング学習
- ・ 大学や専門職大学等と連携したコンピュータサイエンスやアプリ・ゲーム制作への理解を深める探究活動の実践

高校

工学と理学を掛け合わせた探究活動を軸にした実践的な学び
～テクノロジスト^{*4}として社会に貢献する愛知総合工科生の育成～

- ・ 「機械・電気・化学・情報」の4テーマについて、「数学・物理・化学」で身に付けた知識・技能と「工業」の知識・技術を掛け合わせて深める科目『実習』
- ・ 2年次より一人1テーマの課題を設定し、独創的に解決策を探究し、科学的根拠に基づき創造的に解決する科目『課題研究』
- ・ ビッグデータを統計学やAIを活用して、社会的価値のある形にするための学びを実践する学校設定科目『理工』
- ・ 外部講師(あいちT&Eサポーター：370社以上の企業等)を活用し、月1回程度の講話・対話を授業後に実施する『キャリアデザインプログラム』

- *1 DX：デジタル技術を使って、ビジネスや社会の仕組みを根本的に変革し、新しい価値を生み出すこと
- *2 ビッグデータ：従来の手法では全体を把握することが困難なほどに巨大なデータ、新しい知識や価値を引き出すための資源
- *3 データサイエンス：大量のデータを分析して、有用な情報や知識を引き出し、問題解決や意思決定に役立てる学問や技術のこと
- *4 テクノロジスト：高度な知識、論理的な思考に基づいた「技術」とものづくりを創造的に行うことができる「技能」の両方を身に付けた人材のこと

〈中高6年間の教育理念〉

個に応じた環境と、ゆとりある計画的・継続的な教育活動を通して、一人ひとりが新たな可能性を発見しながら社会的に自立することのできる人材を育成

年間総授業時数 770時間(午前2時間・午後2時間)※標準授業時数1015時間

中学校

学びの多様化学校*

安心して学べる環境とゆとりある学び

- ・不登校生徒の実態に配慮した「特別の教育課程」の編成
- ・落ち着いた空間で学習・生活できる環境の整備
- ・1日の目標や振り返りの時間の設定による生徒理解の充実

個々の学習到達度に応じた学び

- ・「チャレンジ(仮)」の授業による「学び直し」の実施
- ・「少人数指導」によるきめ細かな支援の充実
- ・デジタル教材を活用した個別最適な学び

人との関わりを重視した社会性を育む体験的な学び

- ・豊かな人間性や社会性を育む体験学習の実施
- ・社会的に自立するために必要な基盤を育むキャリア教育の実施
- ・地域との連携・協働による子どもたちの深い学びの場の提供

対象となる児童・生徒

- ・年間30日以上欠席をしている(不登校傾向が見られる児童・生徒を含む)
- ・新たな自分を探そうという思いをもち、未来の自分について興味・関心がある

高校

学びの多様化コース

単位制による卒業認定(74単位の修得で卒業)

安心して学べる環境とゆとりのある教育における学び

- ・学びの多様化コースの設置と複数担任制の導入による支援体制の充実
- ・1学級10人程度による少人数授業の展開
- ・学校設定科目による「学び直し」を軸とした基礎学力の定着
- ・生徒一人ひとりの実情に応じた遠隔授業の展開
- ・行事等での他コース生徒との交流による社会性の育成

他コースへの異動

- ・必要とする単位を修得できた生徒は他コースへの異動も可

普通科

学び直し・少人数・個に応じた指導を柱とする学び

- ・わかるまで、できるまで寄り添う教育の実施
- ・3つのコース「国際コミュニケーション」「人間環境」「普通」における特色ある教育の実施
- ・生徒一人ひとりの個性や夢に応じた進路実現の充実
- ・生徒の主体性を育む学校行事や課外活動の実施

相談支援体制の充実

- ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーによる定期的な個別相談の実施
- ・不登校支援センター(愛知県総合教育センターの分室)との連携

個に応じた支援の充実

- ・一人ひとりの特性に応じた通級指導の実施
- ・メタバースを活用した教育相談の実施

* 学びの多様化学校：不登校生徒の実態に配慮した「特別の教育課程」を編成して教育を実施することができる学校

- ・中学校(学びの多様化学校)、高校(学びの多様化コース)とも2026年4月スタート
- ・在籍生徒数が募集人員の範囲内であれば、年度途中でも生徒の受け入れを行う
- ・市町村と連携して生徒の受け入れや支援を行う

〈連携教育の基本理念〉

日本語のみならず母語も活かした学びにより、外国にルーツのある生徒の能力を伸ばし可能性を広げる

多様な文化・思考などに日常的にふれることのできる生活環境のもとで、仲間との協働を通して、多文化共生に向けた取組を実践し、多文化共生社会を生きる力を育む

連携中学校：豊田市立保見中学校

外国にルーツのある生徒の能力を伸ばす学び

- ・ 母語で思考し、日本語で表現する授業の展開
- ・ 地域、大学と連携した日本語指導の充実
⇒ 読書プログラム、ユニバーサルデザイン授業の実践

すべての生徒が参加できる学び

- ・ 学校全体でのユニバーサルデザイン授業の展開
⇒ 焦点化（学習内容の精選等）、視覚化（見てわかる情報提示等）、共有化（相互で学び合いと深め合い）を図り、わかる楽しい授業を創出する

異文化・異年齢との交流による学び

- ・ 総合的な学習（探究）の時間の中で、「多文化共生」を共通テーマとした探究を実施
- ・ 中高合同の成果発表会やディスカッションを通して、様々な視点を学ぶ
- ・ 文化祭等の学校行事への参加や地域活動への参画を推進

新しい教育課程による学び

- ・ 日本語および母語、どちらの言語でも深い思考ができる授業として、リテラシーとコミュニケーションに重点を置いた学校設定教科「日本語」の導入
⇒ 「多読」：学習者の読書力に合わせた本（日本語で書かれたもの）を数多く読むことで、日本語能力の向上を目指す
⇒ 「プロジェクト型思考育成授業」：世界や身近にある問題を解決するためにどうすべきか、母語あるいは日本語を用いて考え、発表することで、思考力やプレゼンテーション能力の育成を図る
- ・ 高校での学びが将来の幅広い職業の選択肢につながることを想定できる機会の設定
⇒ ロールモデル（模範となる先輩）との交流や社会見学

〈連携教育の基本理念〉

地域社会との協働の中で、自己や地域の魅力に気づき、地域の未来を支える人材を育成

中高連携の取組

連携中学校：あま市立七宝中学校、七宝北中学校、美和中学校、
甚目寺中学校、甚目寺南中学校
大治町立大治中学校

異年齢交流による探究的な学び

- 地域等を題材とした中高合同の探究活動
- 中学校の総合的な学習の時間に高校生が訪問
⇒グループワークやディスカッションによる中高生の学び合い、探究活動の相互発表会の開催

地域探究科（2025年度設置）を核とした探究的な学び

- 学校設定教科「地域探究（仮）」を設置し、地域の素材を活かした授業を展開
⇒グループワークやディスカッション、大学と連携した探究活動、教育課程内で実践するフィールドワークや実地調査

高校

地域との連携や交流における学び

- 地域連携センター「美和高マインド」を核とした地域活動
⇒社会福祉協議会と連携した福祉実践教室の実践
⇒地域で活躍する方々による職業人講話
⇒「きっず七宝焼き探偵団引率」「放課後こども教室イベント」等、地域の子どもとの交流を企画・運営
⇒「あまのわ」へのブース出展、運営ボランティア参加
⇒「あま市文化祭」への作品出品、運営ボランティア参加